



雪谷の清流

岩手県立軽米高等学校
学校通信 49号
令和2年3月9日発行

令和元年度 卒業式 3月1日(日) 45名の旅立ち



卒業証書授与
1組代表 井戸渕 七海
2組代表 池端 蓮



校長式辞より

西洋のことわざ「艱難 汝を玉にする」“困難や苦勞に出会い、悩みや苦しみを経験することで、人は磨かれ、立派な人間に成長する”という意味。

中国唐時代の詩人、李白は「天 我が材を生ずる。必ず用あり」「天が私という人材をこの世に生み出したのだから、必ず役に立てることがあるはず」と言っている。

生活の中で喜び、悲しみ、苦しみ、笑い、泣き、感動し、困難や苦勞も自分に与えられた役割として受け止め、全てが自分に与えられた人生として、楽しみ、時に失敗や後悔を重ねながらも、そこから色々なことを学び、一步一步成長して「自分の花を咲かせよう。この学舎を巣立ちゆく卒業生の前途に、幸多からんことを祈る。



高橋校長式辞

来賓祝辞

山本町長
中里 PTA 会長
松浦同窓会長

在校生代表送辞

松橋 駿人



在校生代表送辞より

先輩方が私たちが引っ張ってくれた日々を感慨深く思い出している。応援歌練習、クラスマッチ、軽高祭生徒会活動、部活動等。常に私たちの模範となりたくさんのことを残してくれた。進路選択では、夢をあきらめず、毎日毎日自分の目標へ向かって頑張り、どんな壁も乗り越えてきた姿は、先輩方の志の高さを物語っており、私たちも見習わなければならないと実感した。先輩方が築いてきた伝統を継承、発展させていくことを誓う。





卒業生代表答辞
五郎丸千尋

卒業生代表答辞より
 在校生の皆さん、部活動や行事で私たちを信じてついてきてくれたことに卒業生一同心から感謝します。
 先生方、私たちが思い悩んでいた時、親身になって話を聞いて、自分で解決できるようアドバイスをくれました。三年間でいただいたプリントや教材の量は驚くほどで、その一つ一つが目標達成のために欠かせないものでありました。
 お父さんお母さん、私たちを励まし、寄り添い、不安を和らげてくれました。いつも感謝しています。
 卒業する私たち自身に問いかけて。ここで過ごした時間はどんなものだった？この三年間で変わったことは何でしょうか？変わらず持ち続けているものは何でしょうか？入学式に思い描いた自分には近づけましたか？夢を目標に変えられましたか？ここでの日々には悔いはありませんか？
 ここにいる45名は、一生の仲間であり、最高のライバルであり、かけがえのない存在です。皆とともに過ごした日々は本当に幸せでした。ありがとう。
 この軽米高校で得た多くの思い出、学び、誇りを人生の糧として、力強く生きていくことを誓います。



新型コロナウイルスの感染拡大防止を踏まえ、式次第の変更や規模の縮小、マスクの着用、生徒会歓送会の中止など例年とは違う形で卒業式を挙行いたしました。ご理解ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。